

内視鏡手術センター

身体への負担の少ない 低侵襲手術を実践



齋藤 裕司
内視鏡手術センター長
外科系診療部長
婦人科医長

内視鏡手術センター長 挨拶

手術はいろいろな医療行為の中で、患者さんの身体に行う最も大きな侵襲を伴う治療です。当院の内視鏡手術センターは、患者さんの身体に対して「優しい手術」をモットーとして、傷の小さな手術を悪性腫瘍や良性腫瘍をはじめとするさまざまな疾患に行っています。当センターは外科、婦人科、呼吸器外科、泌尿器科、以上4科で構成され、5名の日本内視鏡外科学会認定・技術認定医、およびそれぞれの分野のエキスパートによる高度な低侵襲手術を実践しています。

内視鏡センターの構成

外科、婦人科、泌尿器科、呼吸器外科の4つの診療科を中心に活動していきます。

外科



指導医が率いるチームプレイで高い安全性を確保

経験豊富な内視鏡外科技術認定医2名が在籍しており、高度の腹腔鏡下手術も安全に行っております。2018年10月からはこれまで全道の外科医に腹腔鏡手術の指導を行ってきた川村外科系診療部長が赴任し、ますます腹腔鏡下手術の先進病院としての機能が強化されました。

適応疾患

- 胆のう結石症 ●大腸がん
- 鼠径ヘルニア
- 胃がん ●急性虫垂炎
- 腸閉塞症 十二指腸潰瘍穿孔
- 婦人科や消化器内科との合同手術

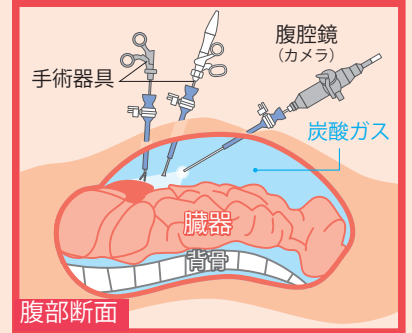
内視鏡による拡大視と直視下を併用

直腸は解剖が複雑な上、狭い骨盤内での操作が必要とされることから、開腹手術を選択するケースが少なくありませんが、当センターでは根治を目指す治療の選択肢の一つです。



臍部の切開創から病変を取り出して切除し、腹腔内で吻合

腹腔鏡手術のイメージ図



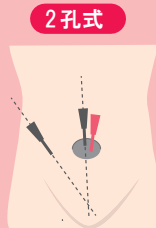
腹部断面

腹部に炭酸ガスを入れ、腹壁を諸器官から持ち上げます。腹部に数カ所の孔を開け、腹腔鏡や鉗子などの手術器具を挿入し、モニター画面に映し出された腹部の様子を見ながら手術を行います。

婦人科



2カ所の小さなキズだけで手術を行います



従来法

単孔式

適応疾患

- 子宮筋腫 ●卵巣腫瘍
- 子宮外妊娠
- 子宮体がん
- 外科や泌尿器科との合同手術

独自の臨床研究から導いた2孔式腹腔鏡手術は傷が少ないため痛みや整容性にも優れ、患者様に好評をもって迎えられております。

自己輸血3つの方法

貯血式 希釈式 回収式

同種血輸血を望まない場合の回収式・希釈式自己血輸血を用いた腹腔鏡下子宮全摘術患者本人の意思を尊重する医療の取り組みを行っています。

泌尿器科



適応疾患

- 副腎腫瘍
- 腎盂尿管移行部狭窄症
- 腎がん ●腎盂尿管がん
- 膀胱がん

腎機能を保持する部分切除

腎がんには化学療法や放射線療法の効果が期待できないことから、治療は外科的に片方の腎臓を摘除する腎摘除術か、腫瘍周囲の腎組織を切除する腎部分切除術の選択になります。当科では腹腔鏡手術による温存治療に積極的に取り組んでいます。



呼吸器外科



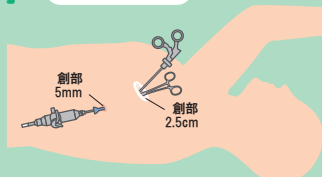
安全性と根治を両立

肺や胸膜のさまざまな病変に対し、胸腔鏡手術を行っています。手術の安全性や根治性を犠牲にせず、体への負担を軽減できるよう努めています。

胸腔鏡手術の切開例

気胸手術の場合

良性疾患である気胸などは2・5cmと5mmの2カ所の創部で胸腔鏡手術を行っています。



通常開胸

胸腔鏡下

胸骨縦切開

胸腔鏡下

適応疾患

- 原発性肺がん ●気胸
- 胸腺腫 ●膿胸
- 転移性肺腫瘍
- 重症筋無力症
- 結核性胸膜炎

